花小考

文化十四
聽雨窓
菊塢
十三
七

へ 5
4455

へ5
4455
門へ5
4455

墨田川菊塢居士行脚集

菊夢

浪花

秋田屋太右衛門梓

閑梅花。花開五葉。
千枝。五葉開遍香四
時節為春爲人稱
其花四銘佛萬

昭和九年十月一日
贈来

老子。莊子鞠塢。
行住其間。主卧其
中。心心萬花。萬花
羣勞。神後之隨之
而化矣。乃自謂云
大江作國之後身
也。鞠塢之精於詩
游與。客歲其學

遊於關西。廣會文
人騷客而遍為應
酬賡和。數百篇。
其言如數萬花之
發其句如含群芳
之氣。步步有人
我。古人稱官文靜
者。以錦心繡口。今余

稱鞠塢之辭四花
著八。觀是遺偏者孰
謂不然耶

戊寅秋七月

江戸鵬齋老人識

序

もゝみぢ川かぎりなくながれて
さく末をかぎりとしるべき
植さしたる長者ども
原まつ屋をこの屋
ちゝとて孫たゝや

諸越の[illegible]野長橋の
前[illegible]常世の[illegible]
はる[illegible]ちの[illegible]れの[illegible]
世[illegible]京
の[illegible]
一日[illegible]

さへ[illegible]人[illegible]の[illegible]
[illegible]の美[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
なく[illegible]入[illegible]
此[illegible]情[illegible]の

もゝふの
花の春
年賀
月居

目次

餞別俳諧　みちゆきぶり
四日市京陽　伊勢半車樓
泊瀬の夕幾　雲津時雨亭
麦井の移居　京山俳家小集
伏見坊夜泊　千蔭家小集
辛濤年考

五十嵐川岸　大津繪の巻
三條絃亭巻　寺町巻
東山巻　堂島巻
花屋敷の巻　柿壷巻
うさい合　負角三巻
餞別和尚流供　樗庵白農

元政の腮炙のうち　坊ら紫の戸只金石の
ふれるまゝ　切り紙挑ふ連句の道
具ことゝ半ばくゝ人置しを文化十四年風
思ひくゝ川る半ばの事にあるおもし
中夢之丁畢田川より友人のまゝ
孫一秀はうり社行路雑を試む
いかゝや

[illegible]　鞠塢

月の[illegible]　蕉雨

[illegible]　[illegible]

入[illegible]　獲物

薄雪の[illegible]　曉河

雀[illegible]　[illegible]雄

神酒[illegible]　玉光

[illegible]の[illegible]　九扑

梟[illegible]　雨

鶉[illegible]　鳩

[illegible]　物

[illegible]　[illegible]

秋[illegible]　雄

秋[illegible]　河

[illegible]の[illegible]　扑

菊[illegible]　光

森の茂る木根もこきぬ花を　雨

すゞれて染る貝の川く　鳩

積すこさ珠三蔭泊りや日のなやき　鷂鳩

木竹の虫をとも以出し気をつけ行お程
よりハそろしんころかともとも志て手めこう行
蚊さ川ふおふるを気をつまにかさ清志
たまたむ事立まさて人なくしかる面き

耳をさへぎるのハと物のひとにあたゝ清
うかこえるこものいきよよあれをいふのや
志くそあるや宮にそれもこゝさつさ人の
ふるむをもうしろひかむ清をもれしろ
云ハんの声ところそれ　なくられ

唖
方にハ書見し先を呼ぶ事　仝
旅ほと折しろきをのハ何くし

録の子ふたま病合や秋の暮　仝

年寄ゝ人のましてやうしぬる月も
子ちわたしを作るもさもなれかし
わき残る月見舞ひて渡る鷺哉　仝
八月十五日すみだ川の良夜を見て
人々の留別の操枕のちぎりわすれ
きくきく夜の秋つけたるを見るにいとなつ
名月や照らし残す脇志ろ　仝
秋をうつする富士墨田川　蔓物

此すすきに残る呂方やそのむかしん　孤山
こよしあさ日やとて餅をゆる弓　鳩
まつりの関持なし屑家にて　物
ささられうるに衆すまん舵　山

其二

雪あかりも以て磨袖が原の月　みち彦
山を庵らてそくちか川汐　ちか女
采ずまあかしろるる萱怪さく　三河みよ　阜沈

紋の[illegible]膳すえ[illegible]　伊勢にて　椎已

家[illegible]べきうる古すゝれ　鶏鳩

老かゝるたよかゝし　賞　ちさ女

生三

墨田川ゝ[illegible]の冬月を　暁河

[illegible]ゝ[illegible]る霧のつゝ[illegible]

[illegible]すゝ[illegible]　知恵尼にて　竹有

車の[illegible]ちるをすゝ　護物

春[illegible]雪ゝ[illegible]揚て　痩菊

[illegible]ゝ[illegible]る正月の[illegible]　鶏鳩

甚四

[illegible]月[illegible]　ちゝ女

一ふ[illegible]の　[illegible]時　鶏鳩

好[illegible]　伊勢にて　有吾

[illegible]　四　[illegible]　也六

[illegible]　わかばにて　翠川

きりしらぬ人数の花屏　志之然

古表の恵しくち餘分に出有
総会に参付ける先家達う
ゆふそ伝ふるなり

宇都の山

之らかけて山蟻か鳴や秋は知　鶏鳴

秋ふし翔るゆる露の日へ、

三河の国をこえる

稲子くや墨吉八雨に志ち敷変、

九月九日無事
招かれての

黄楊ハ葉のさく虎の於　鶏鳴

菫の情からぬ志ら露　四日市　宗古

尾移る波細くて序修て、　典昭

足痕の乙なる風が〳〵なり、　李東

不恒のくつれを寺其本立、　虎明

いつも五日の二十八日、　鳩

白年釈寺

新米しても花とゝきぬ桜かな　鶯鳴

一身田

見る人ハ志る人十日も菊の志るし比香　、

芋洗ふ月ハ角田川に來るを
うたへるよし月豊多川
に[illegible]月明らく鏡なし
何まち権の[illegible]もる人の[illegible]を
つれもなく
[illegible]

後の月何を見てもとや有香　、

立ぬまて鶯[illegible]とかく後の月　僧[illegible]

借りし袖に落るもの十三夜、　野渡

后の月の字つくし[illegible]、　背吾

栽の手に[illegible]や後の月、　六車

豆も見え根も[illegible]やのめの[illegible]、　壷舟

寒さハ侘し侍や後の[illegible]、　湛石

影[illegible]や一輪[illegible]の後の月、　帰来

さまざけの[illegible]さ世月もつき見かな、　挑林

梅もぬきぬれしも濡る后の月、　其白

[illegible]ゆくや坂の月、　耕夫
[illegible]の[illegible]やふ[illegible]や后の月、　海素
[illegible]の月夜さ、　月垣
十三夜月の[illegible]、　南皋
[illegible]、　槐麿
[illegible]の月、　昌作
[illegible]の[illegible]、　松國
[illegible]、　文車
[illegible]月、（牛車持）

[illegible]の月[illegible]、　蚊山
八[illegible]峯[illegible]、　也六

反[illegible]、（古市生車持）
[illegible]の月（花女ふと鈴）
[illegible]川[illegible]の[illegible]（十余九法橋次翁）　菊（日）　ちさ女
鶯鈴の[illegible]　（花女）　江川
す[illegible]の川[illegible]舟[illegible]ゆく　（菊）　ちう女、
盃[illegible]れ[illegible]　作　（[illegible]九法橋）　男　里明尼

池障るの岳のめぐり　雲見　日

初瀬寺

椿市の夕けぶりの和葉うれ　鶯鳩

こゝ清水の池を例へ侍るべき

きぬぎぬの雲女の雲へ入れ

花ざかり

尾花ちるをれば人籠ハ是ぞ

住吉の浦

松原し葉ひくもむつまれ貝

鶴の尾崎をそ形隠るゝ　鳩

、

さゝ波ゝ出つゝ千葉の　鶯鳩

牛ゝ馬ゝ　月居

昔うゝ葉の雪の手る

秋の比ゝ　月　鳩

殿守の袖ゝ　、

葉沙ゝ曲れの毛帯を解る　拔鳩

[illegible]十七日蜀鳩の[illegible]
[illegible]年歳[illegible]

年[illegible]て[illegible]杉の下　右庫　春夜

[illegible]ふ[illegible]杉の根　還古

[illegible]年も幸[illegible]ふ眠きこゝろ哉　鶉鳩

脇合

寒[illegible]菓の[illegible]やたゝ[illegible]　京　蒼帆

小夜の春[illegible]さゆる下窓　鶉鳩

[illegible]杉の月　雪雄

[illegible]世[illegible]の[illegible]　鳩

[illegible]やすく俵　木海

年[illegible]こゝ[illegible]　鳩

[illegible] 定雅

[illegible] 一梅の枝　鳩

[illegible] 萬籟

[illegible] 鳩

[illegible] 万和

[illegible] 鳩

[illegible] 三津人

[illegible] 鳩

火のけを[illegible]山の鹿　河内　未拙

[illegible]　安藝　鶯光

[illegible]　鳩

[illegible]　鶯光

[illegible]　鳩

[illegible]　近江　千影

[illegible]　鳩

[illegible]　鳥頂

[illegible]　鳩

稲妻の[illegible]　宇洋

時々[illegible]時の[illegible]　鳩

夕[illegible]　伊勢　椿堂

おもしろかるべき　鳩

月[illegible]年[illegible]　推己

五比[illegible]の高[illegible]の夜　鳩

[illegible]の雲　尾張　岳猪

種芋尾[illegible]の風[illegible]　鳩

[illegible]　竹香

[illegible]　鳩

[illegible]　河　阜沈

[illegible]　鳩

[illegible]　甲斐　可部里

書[illegible]　鳩

携侍の[illegible]　獲物

初[illegible]　文字　鳩

[illegible] 寥松

[illegible] 二日月 鳩

[illegible] 侍まゆし 三乃

[illegible] 鳩

[illegible] 鶴場の茶の湯仕 乙二

[illegible] 月 鳩

[illegible] 濱良

[illegible] 景寛

花のかをるあさ[illegible]

[illegible] 廣津

[illegible] 月を[illegible]乃友八[illegible]

[illegible]川の[illegible]
[illegible]人[illegible]

蜀山人

東から[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]人を[illegible]

一[illegible]

すゝき川の花[illegible]

[illegible]

絵無を人に[illegible]

[illegible]

[illegible]人の[illegible]

[illegible]梅の[illegible]

絹本画讃　京　義董

[illegible]

[illegible]

[illegible]

絹本画讃　豊立亥

芙蓉[illegible]類に対[illegible]

絹本山水　東山月峰

同　墨梅　同　義亮

[illegible]

猿[illegible]の枝[illegible]ぬき[illegible]　寒松

[illegible]歌[illegible]丈[illegible]月の旅枕　六自

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

餞別

[illegible]門の[illegible]の[illegible]　烏頂

[illegible]

[illegible]　橋本

香合の[illegible]　隅田川、　俊義

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

絹本画讃

おつ[illegible]　素絢

[illegible]

絹本画讃

立[illegible]　文鳴

梅屋句裏

神無月のなかうた墨田川の
梅園を尋ねて

菊ばかり蘇ってさけるうの梅　昌成

ちるものをぬるとは知らぬ梅の花　昌陽

梅のこゝろ芝居あるの野辺哉　昌惇

さうもなく一ぱい花の見　昌功

梅屋敷鳩ぬるまで

きさらぎ梅やまぎらし冬の宿　宗室

ばらばらやうやうや梅の花屋敷　不白

おくまり程の木やしきほゝゑまず　抱一

不こはくゝゝ中よ角田の梅えん　文晁

蜂のまゝ流すうやうちゝ待　滄浪

木守の柿は赤さよ尼うの菴　[illegible]

月うけも蔓るう梅の傳を越　茶化

人の夏丹ばらを義さて

南ゝ一ぱゝなぬるは梅ゝ法　山花

白菊や唐崎の松の緑　得我
雪のうち咲くしらぬ梅の蕾かな　玄兎
青田見て居る人間の日和かな　老鶴
うち笑ふ君を思ふ猫の恋　源牛
青柳や美濃紙の糊の書　月痴
藁の中も枯るさびかな夏陸ふ　百月
むらの時雨の時書文のさしこむ時　千蕉
弁当をしばしゆもの山さくら　渡菊

うの花の情かなる気あつ沙　雅磨
雲雀なくうらの畑の菜の花の　袁丁
むらうかや多女の日色一極　素撲
雪の矢橋都ぬ梅の中さ　益賀
うしまは、ま傍きうたうの松　豪山
朝ぐもや芝のうちの日の影　双湖
切炬燵　霜おく君の蕎　杜英
修行の杖よ蝶　掛　馬渡

[illegible]　考成
[illegible]　梅塢
[illegible]　太節
[illegible]　陶里
[illegible]　[illegible]小女　[illegible]
[illegible]　[illegible]女
[illegible]　里明尼
出代[illegible]　京　金菓

[illegible]　六復
[illegible]　其德
[illegible]　芝山
[illegible]　美山
[illegible]　對山
[illegible]　文貫
[illegible]　名彦
[illegible]　一朱
[illegible]　六河

万葉の歌の中に見えたる みち　五麓
九月の頃の雨の降るあさぼらけ　國村
かすかに見えし小倉山　玉光
一夜ばかりの宿の秋　森樟
寄る波に走る舟のさをの音　阜光
紅葉の蔭に休むほどもなく　對竹
拾ひもあへず雨の降りさへ　鬼洞
時雨や水にうつるらむ　一阿

朝顔の日出屋敷をたてそう　小知
夫月や春をあはれ一廻くち　一麿
みの虫は心の花を書る　金翠
思ふ人の心宮うの稼袁　陽山
影ふかく沙の面の月　蕉雨
月に雲の袖に秋風の角田河　幸雄
雲つまの樹を抜くつれ　可麿
年自煙草の巧もえて蒔ける　一蕙

雪を解く神の御手の梅の蕾　神田　立之

頭巾ぬぎ人かくれぬる比の梅　千菜　剪賀

ゝ雪の降るくさ〳〵の雨塘

花ゆゑ〳〵ゑまぬくもりの春　お復　蕎之

なつかしや春をまつる山の貧　雑海

老〳〵の夜の春の陰さうの　袋紙　奠盛

白梅はけさ咲かんと、　愛風

梅の香や吟行の笠よりこぼれ　泉雖

いとゝなほ春の風の蛙　蛙人

雲雀程よ昼まつる北の菊畑　雀角

一杯の菓のすゝ花の味　隆雪

菓子を老ゝ夕日ふる雲花　秋菜

市の花ゝ都ゝ草の花　江島　杉蘿

ゝ秋の長の夜雨や　亀海

茶菊の噂戸門の菓の色　百奠

ゝ花も花ゝ牡の風　鳥洲

菜畑の郭公は刈まくさ　鳥流
惜しまれん蕭条たる莖　上野　芳丸
殺さて残りしやう寒まて　鶏周
菜の花の白ひさまいふ寒風　下野　嘉支
鳴くこゑも寒を警のすくるれ　信濃　素鑿
ほけたるこゑ〳〵寒嵐の扇ひ　仙台　きよ女
寒質を学ぶとも川なしる　旧友
くるるの秋おるる春の名　長川　美代女

春の月人をこれてとるとけて　雨考
お撰ぶうの投ぎ人足や杜の雲　甲斐　漫々
夕川原や月の居るおりしき　嵐雪
去年比毒のゆるみ梦丸居の月　清井　湖舟
鳴比まるなしれ鶏のおあまて　ふう　秋峯
きみ〳〵於毒ゆ雲や陸畑　不軟
毒〳〵ぬるるのやまの角　南光
山ゆやよ秀と寒山の中とん　竹由

[illegible] 流芝

[illegible] 尾州 路郎

[illegible] 逸人

[illegible] 騎上

[illegible] 天巣

[illegible] 秋麿

[illegible] 新[illegible] 花廿 [illegible]

[illegible] 伊勢 宗古

[illegible] 典路

[illegible] 李東

[illegible] 李仮 翠川

[illegible] 山田 毎牛

[illegible] 丹霞

[illegible] 三江 光陶

[illegible] 来章

[illegible]　還古
[illegible]　崔峰
[illegible]　二風
[illegible]　米友
[illegible]　汲波
[illegible]　古鑑
[illegible]　曲河（丹波川 ちかえ）
[illegible]　千當

[illegible]　梅関（[illegible]）
[illegible]　野揚（丹波）
[illegible]　文雪
[illegible]　田夏（[illegible]）
[illegible]　奥村
[illegible]　冥史（[illegible]）
[illegible]　魯隠（[illegible]）
[illegible]　米袁

京のくれの夜をせめて小座敷の色　奥眼
秋ふかしとなりしかたりの　長齋
明ちかしの雲のきらしそらの設　井九
通ふかあるのはハ紅葉ふて　鈴雪
まもなくや雪のふるもとくしや　木光
散るいつもの色のうすまるそ　泊雪
かなべ川のそしもとやそ　扇暑
袖のうへのちるまもしまし後の側　屋烏

名月や夜の雲ふる色哉　井眉
十月や松の赤の浦ふる　星薔
夜をこめて水のうるるの稲　尾張田　鑑河
弾うれをうけて雲のうつ　京　四日　涼涛
ちるさくしの弱葉の紅　江戸　玉民
鞍　雲ふるハ　京　牡の紅　梅價
十雲の牛鬼まくすしくもひ　百池
何のうれくそもあくもの　杜蓼

ゆく春の一番もやうの屋　貨僕
涼る夜や一いきたりの弗の蓑　土卵
大波うかべて東をよ撫子多　菅鳥
ほさうは春をかりやの小笹　うのを
花の夜や東屋の寄もさゆる　小八
うつをやちらりちらりと小豆　いろは
うやうやうおくやの月夜の茶山　之八
おあやめ杜をういうれをつる　松

賜うおくの百のむらやめ寄の山　守之
古川の水をて入ぬさうの家　千崖
部さんれる蛙しの華ハよを日雪　乙青
番鈴をのうちはたをよ野の寄　芙九
を義を一兎のうりはれて已　其成
寒て入ケ子うを見るや芦の雪　菱益
うう野うるよ多鈴毛野女寄花　風車
ゆうをて野山よ寄ぬ小巣うを　菜十

[illegible]の山すむ人[illegible]や　夕　煙　伏見　千枝女

又六つの白雪　庫　[illegible]　草園

白[illegible]　草　草

[illegible]　枝中　捍雪

[illegible]の眉[illegible]　日　雪　雪

[illegible]の[illegible]　[illegible]　尾伯　宣彦

[illegible]　[illegible]　定磨

[illegible]　[illegible]　春旭

[illegible]　祇園町井[illegible]や　素耕

[illegible]　[illegible]の山　月峰

[illegible]　[illegible]の緑　川口　帰来

[illegible]の月二汁[illegible]　江戸　魚貫

[illegible]　[illegible]　嶺雪

[illegible]　[illegible]　秋毋

[illegible]　[illegible]　普茂

[illegible]　[illegible]　北元

提灯ふ仮名ふるさとひさう形　仁戸　蒙

紅ゝたる燈ハ色ゝ雪の降　百里

ふるゝゝ雪ゆゑ花ゆゑ　文昌

元典ゝゝて秋ゝさ小島ゞ　梅壽

草ゝ末ゝする〳〵秋の行ゝて　明象

庵ゝゝゆゝ底も秋をゝゝ月　文月

ゆゝゝゆゝ夢ゝゝも形〳〵雪の榜　新賀

花袋　孤

追加

蛙ゝゝゝ世ゝゝゝゝゝゝ花の数　芦舟

彩白ゝ花ゝ義をゝ命ゝゝおゝゝ　佳瓊

蛙ゝゝゝ梅ゝゝ桜ゝゝ形ゝ婦人　連馬

黄蜂〳〵門ゝ梅ゝ白ゝ　素龍

牡ゝゝゝ雪ゝ月

德不孤

宮城県図書館蔵

昼野薩乃
高市原
かりへる まくさをあてる毛
さくさ毛ものを

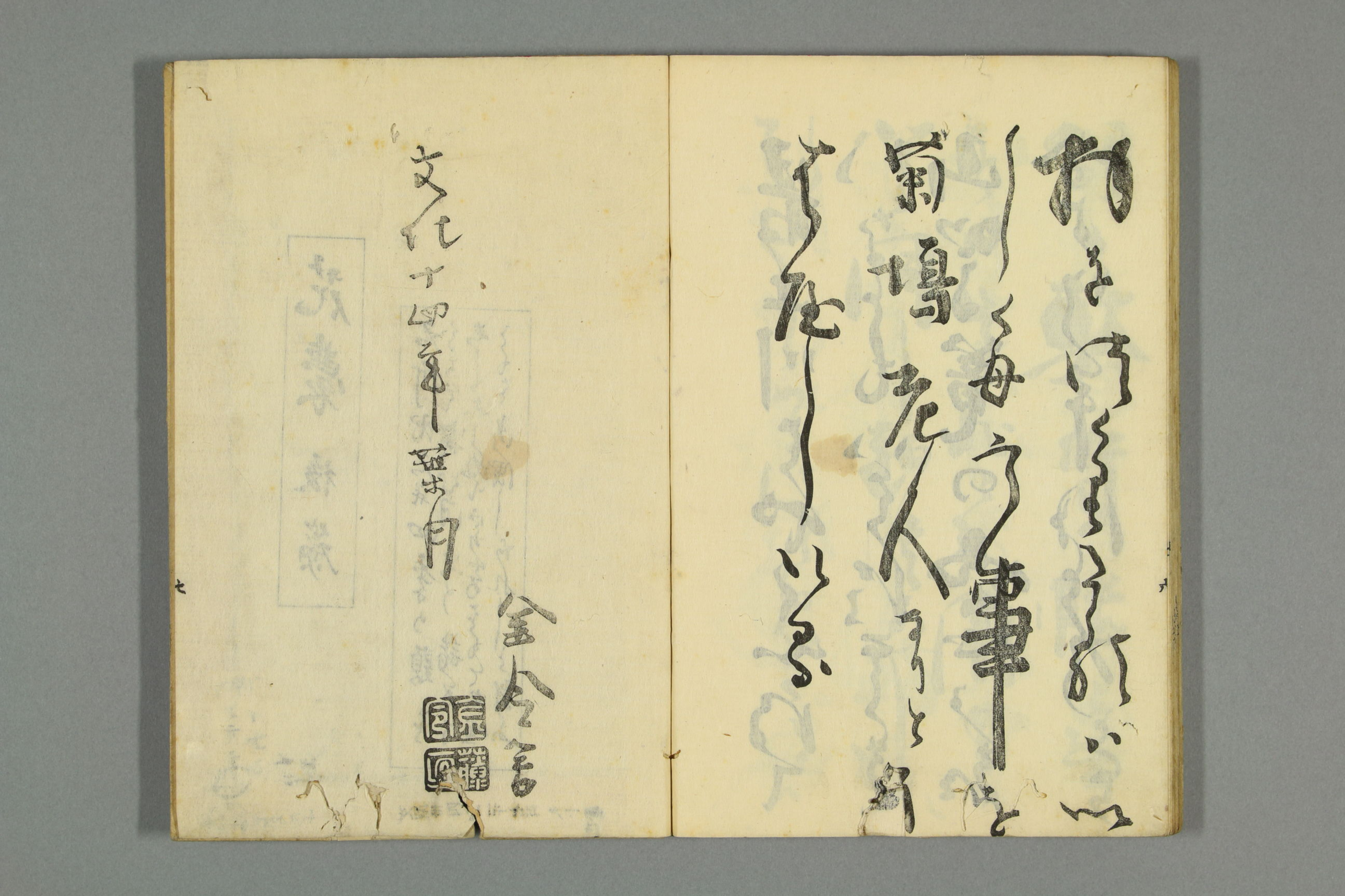
[illegible]佛をふ[illegible]
[illegible]年延喜天
暦乃[illegible]
赤人丸[illegible]飯

の表まのくれなゐの
色をまさりて
ゆふ日鏡とぞ
ちいて侍る

陸奥国にて母
をまうでしに
八重なる竹のもと
にて

頭駄清吟
をいまゝ
笠間一郎
とりまきに
はいをゝ

最上川に
いなもゝ
西野蕎
合よりの



花叢 後序

名所拾遺 四季の題を
[illegible] 詠歌
[illegible]
[illegible]